

ExTEND2005 疫学研究手法研究について

1．基本的な考え方

「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について -ExTEND2005-」においては、「個体レベルでのヒト健康影響と内分泌かく乱作用に関連する化学物質暴露の因果関係を把握することを可能とするような疫学的手法についても検討しておく必要がある。」としている(p21)。

2．疫学研究手法研究メンバー

以下に示したメンバーにより疫学研究手法研究を実施する。

岡山 明	国立循環器病センター 循環器病予防検診部 部長
加藤貴彦	宮崎大学 医学部 社会医学講座 公衆衛生学分野 教授
佐藤俊哉	京都大学大学院 医学研究科 社会健康医学系専攻 医療統計学分野 教授
中井里史	横浜国立大学大学院 環境情報研究院 教授
林 邦彦	群馬大学 医学部 保健学科 医療基礎学講座 教授
村田勝敬	秋田大学 医学部 社会環境医学講座 環境保健学分野 教授
吉田貴彦	旭川医科大学 健康科学講座 教授

3．進捗状況

平成 17 年 12 月 19 日に平成 17 年度第 1 回 ExTEND2005 疫学研究手法研究メンバー会議を開催し、研究の今後の進め方及び化学物質の内分泌かく乱作用のヒト健康影響についての疫学研究手法について意見交換を行った。